

- 密室の頭脳戦
  - 「安楽椅子探偵」
    - 映画と現実が同時に進行
    - 主人公と焦燥感を共有
  - 情報が随時更新
    - 画面上の「有罪率」が乱高下
    - 密室だからこその思考のスピード感
- 因縁の決着
  - 中盤から終盤
    - 密室劇から一転
    - 街全体を巻き込んだ壮絶なアクションへ
  - 真犯人ロブ
    - かつて容疑者の実の兄弟による復讐
    - 視覚的なカタルシス
    - 男たちの肉体が激突する戦場へと反転
- 「人間の感情」がもたらすバグ
  - 対比
    - AIの限界 VS 人間の感情の危うさ
    - AI裁判官＝過去データを並べ替えているだけ
  - 服についた血痕
    - 主観的な背景をAIは汲み取れず
    - AI＝殺害率を高める記号でしかない
  - 結末
    - 射殺を踏みとどまるレイバン
    - 「衝動」というバグ → AI予測を裏切る